

---

# それって・・・あり～？

琳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

それって・・・あり〜？

### 【Nコード】

N0974N

### 【作者名】

琳

### 【あらすじ】

友人の泉と遊んでいたら・・・何だかいきなり死んだといわれて！？

ハリーポッターの世界で生き抜く2人の女の物語。

ただいま一部改正中のため投稿が滞っています。  
すみません

## 運命の二ページ目前日

「今日も暇っ・・・」

そっだ、泉に電話・・・」

XXXX - XXXX - XXXXと・・・（プルルル・・・）

「もしもし？恵美っ暇で死にそう、助ける！」

「あ、恵美か？元気にしてたか？」

くっ！スルーされた！！  
ならば！！！！

「私さー最近ね・・・」

人生相談を持ちかけてみた

「ああ、ストーカーにでもあったか？  
まあ、あんたの場合チヨクスリーパーか裏鉄かけてそうだがな」  
な、こんな形でスルーされるとは！  
だが、まだ甘い！

「チヨクスリーパー？  
裏鉄？泉、なめてるのか！？  
定番はアイアンクローだろ！？」

「いや、着目するところが違う・・・  
でも、あんたならそう解釈するよな」

「フ、引っかかったな」

「理解してしまったことが悔しい！！」

「でも、スルースキルが身についているじゃん」

「あんたのせいだ！」

つつかついてもうれしくないな!？」

そんな感じでも5時間はしゃべり (長!)

明日、近くの駅で会うことになった・・・。

その時会っていなければ

私達は今までどつりの退屈な日々を過ごしていただろう・・・。

## 運命の二ページ目

「あ、いたー泉。」

「遅れてごめんね。」

「いーよいーよ」

きいいいっ!

スリップ音と共に車が突っ込んできた

「え？」

ばんっ!!!

わたしたち・・・死んだ？

「しんだ・・・みたいだな。」

「案外あっけないね」

「それより……ど……」

「しらん。」

真っ白な部屋にたたずむ私達の前に  
どっかから、イケメンのにーちゃんが出てきた。

「………」

「おい、お前どこだ  
……そして誰だ！」

「いっちゃん、こえーよ。  
言葉に、殺気が……！」

（神「僕は神様で、間違えて殺してしまいました？」

「ふざけるのも大概にしろ？」

「わかった！貴様極度の痛いやつだなあああつ！」

(神)「ごめんなさい。しよぼっ」

「ゴメンですむと思うか？」

殺気を出してみる

「ひいい」

じゃ、じゃあ間違えて殺してしまったお詫びになんかしてあげる」

「ホント？じゃあさ、ハリーポッターの世界に行かせて  
まあ、無理だったらいいけど」

「わかりました。お安い御用です。  
ついでに、チートにしてあげます。(案外いい人っぽい」

「ほら泉も行くよ。」

なにか考え事をしていた泉にこのことを話す。



「神様？だっけか？すまん。こんらんすると変になるんだ。」

「気にしてないから大丈夫です。んじゃ、おくりますよ！。魔法、体術、超能力は漫画とか物語にのってたものすべて使えます。それと子供の姿になっていますから。」

「「はい」」

「いつてらっしゃーい」

「ここで意識は・・・とき・れ・・・た・（くたっ）」

「知らない天井だ・・・」

「それはべた過ぎないか？」

「あ、置手紙。なになに、ここがきみ達の住みかです。3年後に本編始まりますb\_i神様」

「・・・どんだけ、てきとうなんだ・・・って今8歳かよ。」

「……まあ、まず食料探した。」

それより、マグルの銀行に、800億とグリッソツに金庫2000つてどゆこと？

まあ、いいか

運命のページ目（後書き）

ああ、文才がほしい。欲しくてたまらない!!!

## 新しい友達

時々聞こえてくる神様の声にこたえながら、約10日。

ココの生活にも慣れてきた。

今、泉はココの周辺を探索しに行っている。

コンコン。泉以外の人だ……。あやしい？いいや、それよりも泉に怒られるの怖いし……。

開けるのやーめよつと。

……。「@%\$&#',%%\$%\$%#%#%&%?」なっ何かいつてる？

そお〜つとそお〜つと……

「家の人居ないのかなあ……?」

ああ……良かった英語だあ……。

「ええっ？どーしょ。迷子になっちゃった。」

なあんだ。迷子か。

かちゃ……。。

「ごめんなさい、まっただ？」

「ああ、家の人ですか？」

「うん、ごめんね中々あけてあげられなくて。とにかく、上がって？」

「はああい。おっじゃまっしまーす」「

「あなたたち、なまえは？」

「エルナです」

「メリユーナです。」

「私は、美恵よろしくね。」

「「よろしくー美恵」」

・・・泉になんて説明しよう・・・？

まあ、えらくフレンドリーだったのでなんとかあった

うん？人酔い？

あの二人、どうも有名会社の令嬢らしくって、  
黒服の怖いおっさんが来ました。

あの二人は、  
お嬢様学校に通っているらしいんだよね。

学校から逃げてきたらしいです。

魔力はなかったから  
ホグワーツには関係ないと思う。

関係がないほうがいいのか・・・？

〈3年後〉

「持ち物、  
全部もつたか？」

「はい!!」

私達は、  
ホグワーツ行き駅についた。

・・・人が多いっ！

「恵美・・・」

い、泉?!か、顔色が・・・。

「酔い止め・・・、  
持ってるか？」

なぜに？



「・・・人酔いしそうだ。」

・・・おいつ！

確かに人が多いの  
私も苦手だけどさっ！

人酔いはしないよ？！

「は、早く汽車乗ろうっ！」

・・・どうなるのかな・・・。

なので私は泉を引きずっているのにきずかなかった

## 美形ばかり

汽車に入った私達は絶句した

だって、だってっ……………

全員、美形ってどうゆうことなのよっっっ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!  
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

内心、叫びたい気持ちで一杯です。

なんか逆切れしながら、空いている席を捜し求めました

あ”あ”あ”、もういや助けて誰か。足痛い。

ヘルプミーイイイイイイイイ！ (心の叫び)

ガラガラ……

あ、ここにあいてる。

と、思ったら目の前に双子赤毛の美形さんが。

もち、ぶつかりましたとも

「あわわ、す、すみません。(何この美形さん!?)」

「ごめんね?フレッド俺トイレ行って来る」

双子の片割れ(フレッド)さんに私は見入ってしまった  
おなじ双子なのにどうしてこんなに魅力を感じるの・・・?

「・・・っ／／／／／」

「・・・大丈夫?後ろのこ」

「・・・なにが?」

首をかしげると顔をさらに赤くしながら後ろを指す。

ああ、そういえば泉を運引きずってんでいたんだっけ・・・

・・・デジャウ

「おい。起きろお」

ぺちぺち

「うーん・・・」

もうちょっと強くしないと駄目かな？」

べちべ・・・

「・・・いたい（泣）痛いからやめてくれ  
頼む」

お、起きた

「なんか、恵美が切れると立場が逆転するよなあ・・・  
あ、なんか自分で言ってる虚しくなってきた」

ははは、そうかな？

「じゅめんね？」

でも、あの双子さんのおかげだよ？

あの双子さんが気づいてくれなかったら  
どうなっていたことやら。

とにかくお礼言っときな？」

「……どこにいるんだ？」

「トイレいってる……。あ、戻ってきた、って泉？」

泉は双子の片割れさん（ジョージ）を見て顔を真っ赤にして固まっていた。

双子の片割れさん（ジョージ）も泉を見て顔を真っ赤にしていた。

……デジャウを感じる、なぜ？

泉から見た日常？

おはよう、今日は私から見た日常を教えようか

運命のページ目前日〜泉side〜

「む、今日はやることがないな」

美恵にでも電話するか・・・

プルルル、プルルル

お？

美恵からではないか

ちょうどいいタイミングでかけてきたな・・・

もしや・・・確信犯！？  
そんなわけではないか。

あ、早く出ないと切れるかも！  
ピッ！

「もしもし？美恵です。」

相変わらず能天気だな

「あ、恵美か？元気にしてたか？」

いつたら殺されるのでいわないが

「あはは、元気、元気いー。  
アハハハハハハハハハハハッ！」

「わっ！と、いっまりすごい肺活量だな

「笑いすぎ！」

突っ込むと

「笑い杉・・・？」

何それっ！？新種の植物！？新種の杉！？」

「ご返ってくる

「いや、違うから！」

また、「ご返りな



「何だ……。ビックリするなあ」

「こう返ってくる」

「そもそもそう解釈する人っている?」

「こういう反応も懐かしいな」

「いる!それは私!」

「おまえはボケ、だな」

「あんた変人!?!」

「まあ、さらに変態度も高くなったが」

「それでもこいつは私の親友だ」

「ひでえ」

「どーが？」

「脳みそがWWW」

ぶちっ。私の中で何かが切れた

「よし、そこへ直れ

さあ、私刑の「すみません！許して下さいエ、姉御！！」

ぶちーんっ。再度私の中で何かが切れた

「姉御言つなああああああ！！！！！！」

5時間の会話の末に明日駅で会おうということになった。

うむ、楽しみだな。

おろ・・・？何か忘れてるような？

あ・・・・・・・・・・・・・・・・仕事の原稿（汗）

どうするか？そんなの決まってる。

死ぬ気で仕上げろ、私。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0974n/>

---

それって・・・あり～？

2011年7月23日21時53分発行